

第3分科会

「評価・改善」

大島 支部

組織力を生かした学校づくり

本分科会は、「学校教育の充実を図るための評価・改善の推進」を研究課題とし、東京都世田谷区立玉川小学校と鳥取県鳥取市立米里小学校の二校が研究発表を行った。どちらの学校も適切な評価指標に基づく学校評価に取り組み、学校の組織力・チーム力を向上させながら教職員の育成も図り、学校づくりに臨んだ実践発表であった。発表の要点は、①学校経営方針（教育課程）の策定、②校長方針の浸透、③組織づくり、④チーム力の育成、⑤教職員育成の五点について、校長の果たすべき役割やあり方が示された。協議では、校長の明確な学校経営方針が評価活動と一体化していること、学校評価結果を受けて教職員がチームとして即座に新た



な取組を始める、人事考課を通して個々の教職員の人材育成にあたるなど、校長のリーダーシップについて確認がなされた。

本分科会での成果を次の三点にまとめた。

一 校長はゴールイメージをもった明確な学校経営方針を示すことである。よく言われることであるが、改めて校長の示す学校経営方針が明確であれば、それだけ学校評価を通じた学校改善が進めやすくなる。

二 校長の重要な役割は学校内だけでなく、保護者や地域の方に積極的に学校経営方針を語り、交流をもつことである。その中で情報として得た小さな要求に対して、タイミングを逃さずに対応することが大切。学校評価アンケートも大切だが、日常的な評価改善活動を大切にしたい。

三 学校評価結果を受けて、教職員全体が改善に向けての取組をチーム学校として進めていくことである。このことが、教職員の学校経営への参画意識を醸成し、人材育成につながる。このとき校長は、最大限権限委譲することが大切である。初めて参加した全国大会、裏方の大変さも感じたが実践につながり、得るものの多い大会であった。

(沖浦小学校 中山一弘)

全連小山口大会を通して

第4分科会

「知性・創造性」

熊毛 支部

再考、校長の果たすべき役割

本分科会に参加し、改めて教育課程を編制・実施する上での校長の果たすべき役割について見つめ直す良い機会となった。教育課程編制は、校長の学校経営方針を基に教務主任が中心になって行うことが多い。しかし、今回の発表内容やグループ協議で出された意見のように、教職員に対するアンケート結果を基に、子どもたちに育てたい資質や能力を明確にし、目標の共有化を図ることで教職員のベクトルを揃える。その上で、校長自らが教育課程の方針を視覚化したグラフィックデザイン等を提示することは、

教職員間の意識差を埋め、参画意識を高めると共に主体的な協働実践につながる上で大変重要である。併せて、地域や関係機関との調整、予算の確保、情報発信等も後方支援としての校長の重要な役割である。また、小中連携の視点として、九年間を見通した子どもたちに「付きたい力」を中学校プロジェクトの教職員で明確にする。その上で、校長、教頭、教務主任等による合同会

議において、授業改善や学力向上、キャリア教育の推進等について協議し、各校でプロジェクト化を図りながら実践する取組は意義のあるものである。

現在の日本社会は、知識基盤社会やグローバル化の進展など大変変化の激しい状況にある。こうした社会の変化に柔軟に対応する力や新たな課題に挑戦しながら主体的に解決する力を身につけさせるためには、従来の教育課程では補いきれない「新たな知を拓く」ための教育課程を整備する必要がある。併せて、自らの生き方に自信をもち、志を抱く教育活動を推進していくことが重要である。このような状況において、改めて校長として次世代を担う子どもたちにとどのような力を付けたいのか、そのためにはどのようなカリキュラムマネジメントを行えばよいか、本分科会で得たことを生かしながら、今後も研鑽を積んでいきたい。



(佐賀小学校 荒木和博)